

明和町 防災マップ

地域みんなで備え、助け合い、災害から自分たちの身と地域を守ろう

保存版



「明和町防災マップ」は、防災に関連する施設や災害危険箇所を記した地図、災害に対する心構えや災害が発生したときの行動についてまとめたものです。災害は突然やってきますが、日頃から防災の備えや心の準備などができていれば、被害を最小限に食い止めることができます。皆様のご家庭や職場周辺の危険箇所を知っていただき、ご家庭や地域などの防災対策の参考にさせていただくために、ぜひご活用ください。

この防災マップは、三重県自治会館組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006三重県共有デジタル地図（数値地形図2500（道路線1000）」を使用し、調整したものです（承認番号三自治第415号）。

- 1. 地震に備えよう 1
- 2. 風水害に備えよう 15
- 3. 避難場所一覧 20
- 4. 防災マップ 21
- 5. 津波・洪水ハザードマップ 25
- 6. 防災関係機関一覧 33
- 7. 防災メモ 34

明和町

1. 地震に備えよう

近い将来、東海地震、東南海地震、南海地震が起きることが懸念されています。また、三重県内には、いくつもの活断層があり、内陸直下型地震にも警戒が必要です。

いつ起こるかわからない地震に対して、日ごろから一人ひとりが備えておく必要があります。

明和町を襲う地震



●明和町で想定される大きな地震

	海溝型地震	内陸直下型地震
説明	海洋プレートが大陸プレートに沈み込んでいるため、定期的に大陸プレートが跳ね上がって起こる地震 * 大津波が襲ってくる危険性がある。	活断層がずれて起こる地震 * 活断層の存在が知られていないところでも地震が起こることがある。
揺れ	横揺れ	縦揺れ
揺れの長さ	長い（1分以上続く場合もある）	短い
発生する間隔	数十年～100年単位	千年～1万年程度
代表例	北海道南西沖地震、スマトラ沖地震など	兵庫県南部地震、中越地震など
明和町で震度5以上の揺れが予想される地震	東海地震【5弱】 東南海地震【6弱】	養老―桑名―四日市断層帯【5弱】 伊勢湾断層帯【6弱】 布引山地東縁断層帯東部【6弱】 頓宮断層【5弱】 など

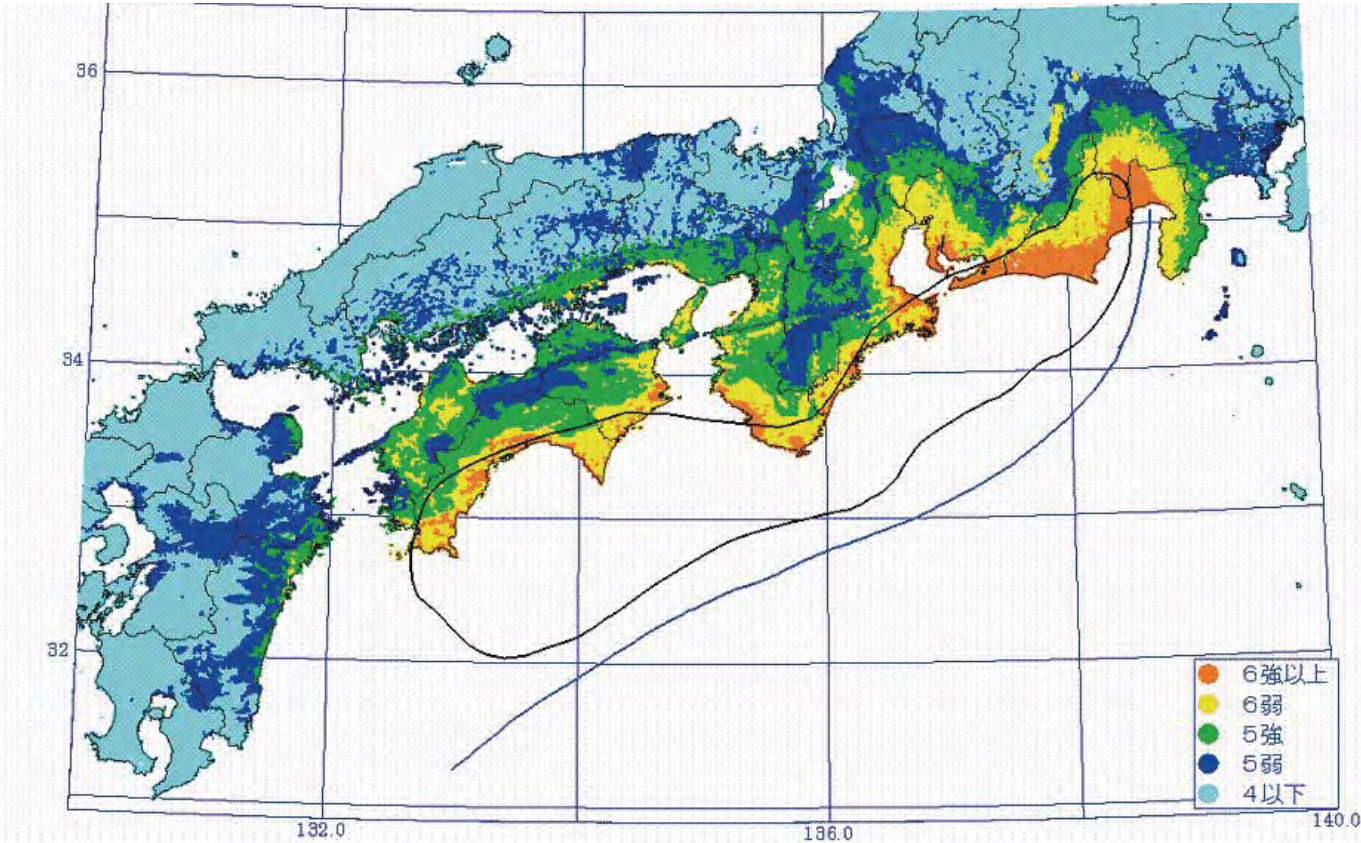
●震度による揺れと被害

震度	人間	屋内の状況	屋外の状況	耐震性の低い木造住宅
5弱	身の安全を図ろうとする。	棚の食器類が落ちることがある。	ブロック塀が崩れることがある。	壁や柱が破損するものがある。
5強	非常な恐怖を感じる。行動に支障を感じる。	重い家具が倒れることがある。	多くのブロック塀が崩れる。多くの墓石が倒れる。	壁や柱がかなり破損したり、傾いたりするものがある。
6弱	立っていることが困難になる	重い家具の多くが移動、転倒する。	かなりの建物で、壁のタイル、窓ガラスが破損、落下する。	倒壊するものがある。
6強	立っていることができず、はわないと動けない。	重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	ブロック塀のほとんどが崩れる。	倒壊するものが多い。
7	自分の意志で行動ができない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルなどが破損、落下する。	耐震性の高い住宅でも傾いたり、破損したりするものがある。

気象庁震度階級関連解説表（抄）

●東海地震、東南海地震、南海地震の発生確率など

名 称	発生確率 30 年以内	規模	震源域	前回の発生 (発生間隔)	同時発生 連続発生
東海地震	いつ発生しても おかしくない	M8.0	静岡県西部 駿河湾	1854 年 (118.8 年)	東海地震、東南海地震、 南海地震は、同時発生、 または、時間をおいて 連続して発生する可能 性もあるとされていま す。
東南海地震	60 ～ 70%	M8.1	熊野灘沖	1944 年 (86.4 年)	
南海地震	50 ～ 60%	M8.4	四国沖	1946 年 (90.1 年)	



東海地震＋東南海地震＋南海地震の震度分布図（中央防災会議資料より）

●東海、東南海、南海地震が同時発生した場合の被害想定

（「三重県地域防災計画被害想定調査報告書：平成17年3月」より）

	明和町の被害想定数
建物	全壊 763 棟 (3.7%) 焼失 140 棟 (0.7%) 半壊 1,411 棟 (6.9%)
人的被害	死者 12 人 (0.1%) 負傷者 154 人 (0.7%) 罹災者 19,146 人 (85.9%) 避難者 505 人 (2.3%) 帰宅困難者 1,856 人 (8.3%)
津波被害	死者 9 人 海水浴客の死者 4 人 建物 全壊 1,256 棟 半壊 2,444 棟 軽微 3,118 棟 床下浸水 461 棟

※（ ）内は、明和町全体に占める割合。
※建物の焼失については冬の18時の発災を想定した値。
※人的被害については冬の5時の発災を想定した値。
※津波被害の数字については、河川・海岸施設が機能しない場合の被害を想定しています。なお、津波被害による死者については早朝の発災を想定した値。

1. 地震に備えよう

日ごろからの備えを万全に

●家庭で防災について話し合おう

いつくるかわからない
地震に備え、月に1回は災害から
身を守るために家庭防災会議を
開きましょう。

- 1 家族一人ひとりの役割分担を決める
- 2 家の内外の危険箇所をチェックする
- 3 家具などの転倒・落下を防ぐ安全な配置を考える
- 4 災害時の連絡方法や避難場所を確認しておく
- 5 非常持出品のチェックを定期的実施する

●非常持出品チェックリスト

避難が必要になったときにすぐ持ち出せるよう、ふだんから準備、点検しておきましょう。

避難のときにまず最初に持ち出すもの。

非常持出品

一次持ち出し品

＜男性で15kg、女性で10kg程度＞

- 携帯ラジオ ☐
- ☐ 予備電池
- 懐中電灯 ☐
- ☐ 予備電池
- 救急医療品 ☐
 - ☐ ばんそうこう ☐ 傷薬
 - ☐ 包帯 ☐ かぜ薬
 - ☐ 胃腸薬 ☐ 鎮痛剤
 - ☐ 消毒薬 ☐ 持病の薬
- 非常食など ☐
 - ☐ ミネラルウォーター ☐ 乾パン、クラッカー
 - ☐ 缶詰、レトルト食品 ☐ 水筒
 - ☐ 紙皿、紙コップ ☐ 割りばし
 - ☐ 缶切り、ナイフ ☐ 栓抜き
 - ☐ 粉ミルク（赤ちゃん用）
- 貴重品 ☐
 - ☐ 現金（要10円玉） ☐ 預貯金通帳
 - ☐ 印かん ☐ 免許証
 - ☐ 権利証書 ☐ 健康保険証
 - ☐ 重要書類の番号を記したもの

その他生活用品など

＜必要に応じて一次持ち出し品に＞

- ☐ 衣類（着替え） ☐ タオル
- ☐ ウェットティッシュ（ティッシュ）
- ☐ 雨具 ☐ ライター（マッチ）
- ☐ キッチン用ラップ ☐ 生理用品
- ☐ 紙おむつ ☐ 哺乳びん
- ☐ 母子手帳 ☐ 軍手
- ☐ 予備のメガネ ☐ マスク
- ☐ 笛 ☐ カイロ

災害復旧までの数日間（最低3日でできれば7日）分準備するもの

非常備蓄品

二次持ち出し品

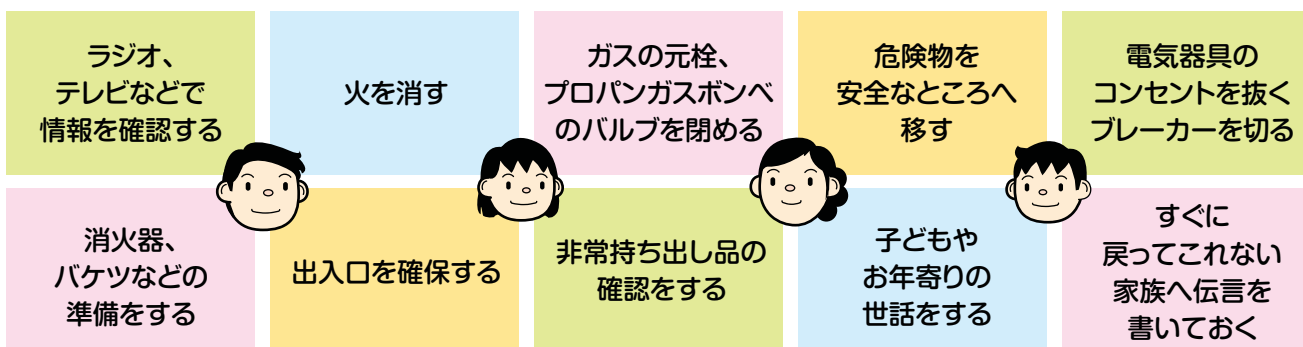
- 飲料水（1人1日3リットルを目安に） ☐
 - ☐ ミネラルウォーター（ペットボトルや缶入りのもの）
- 非常食品 ☐
 - ☐ 乾パン
 - ☐ 米（レトルトやアルファ米も便利）、切り餅
 - ☐ 缶詰やレトルトのおかず、インスタントラーメン
 - ☐ ドライフーズ
 - ☐ チョコレート・アメ・チーズなどの菓子類
 - ☐ 梅干し、調味料など
- 燃料 ☐
 - ☐ 卓上コンロ ☐ 携帯コンロ
 - ☐ ガスボンベ ☐ 固形燃料
- その他生活用品 ☐
 - ☐ 生活用水（風呂や洗濯機に備蓄。乳幼児の事故には注意）（1人1日7ℓを目安）
 - ☐ 毛布・寝袋 ☐ 新聞紙
 - ☐ 洗面用具（石けん・歯磨きセット）
 - ☐ ドライシャンプー ☐ 鍋、やかん
 - ☐ ポリ容器 ☐ バケツ
 - ☐ トイレットペーパー ☐ ろうそく
 - ☐ ロープ ☐ 筆記用具
 - ☐ セロハンテープ

非常持出品は定期的に点検を



●家族で役割分担を！

情報収集や火元の管理、非常持ち出し品係など避難時の役割を決めておきましょう。



●家の中の安全対策

阪神・淡路大震災では、6,400人を超える犠牲者が出ましたが、その**大半は家屋の倒壊や家具類の転倒などによる圧死や圧迫死**でした。住宅の耐震化や家の中の安全対策が重要です。また、ブロック塀やプロパンガスのボンベなど、家の周囲にも注意が必要です。

家の中に逃げ場となる 安全な空間をつくる

人の出入りの少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるように配置換えをする。



寝室には家具を置かない

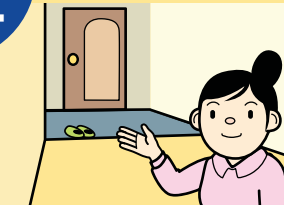
就寝中に地震に襲われると非常に危険。特に、子どもや高齢者、病人などは、倒れた家具が障害になって逃げ遅れる可能性があるので注意が必要。どうしても置かざるを得ない場合は、倒れてきても下敷きにならない場所で寝る。



家具は壁や柱にぴったりつけて置く。下に小さな板などを差し込んで、壁などに寄りかかるようにするとよい。また、金具や固定器具を使って転倒・落下防止策を万全に。



家具は倒れにくいように配置し、 固定する



出入口や通路に物を置かない

玄関や廊下は、イザというときに逃げ場になる大切な場所。できるだけ家具などを置かないようにする。

●家具の転倒・落下を防ぐポイント

タンス・本棚



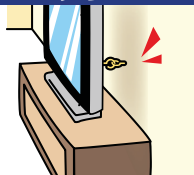
L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合は、つなぎ目を金具で連結しておく。

食器棚



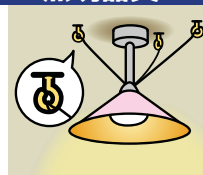
L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきを敷く。扉が開かないように留め金具を付ける。

テレビ



できるだけ低い位置に固定して置く。(家具の上には置かない)

照明器具



チェーンと金具で天井に固定する。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておく。

町では、建築年など一定の条件を満たす木造住宅を対象に、無料で耐震診断を受けていただける制度を設けています。耐震診断で、まずは自分の家の耐震性を知り、必要ならば耐震改修をするなどの対策を取りましょう。耐震改修に係る工事費への補助制度もあります。【問い合わせ先】明和町役場 危機管理室 電話 52-7110 ファックス 52-7137

1. 地震に備えよう

地震がおきたら

●行動をイメージしよう

地震だ！

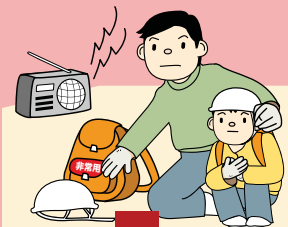
地震発生直前
(発生数秒前～十数秒前)

地震発生(3秒)

緊急地震速報が放送される

- ☐ おちつく
- ☐ 身の安全を確保

揺れがおさまった
3分



- ☐ 津波、崖くずれからすぐ避難(車は使わない)
- ☐ 火元の確認
(出火していたら初期消火)(ガスの元栓を閉め、ブレーカーを切る)
- ☐ 出口の確保
- ☐ 家族の安全確認
- ☐ 靴を履く
- ☐ 非常持ち出し品を手近に用意する
- ☐ ラジオなどで情報を確認

みんな無事か
3時間



- ☐ 余震に注意
- ☐ ブロック塀やガレキに近寄らない
- ☐ 隣近所の安全を確認
- ☐ 隣近所で協力しあって消火・救出活動、応急処置を
- ☐ 漏電、ガス漏れに注意(再度、出火防止確認)
- ☐ 自治会等の指定する一時集合場所、避難場所に集合(車は使わない)
- ☐ 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する(車は使わない)
- ☐ 子供を迎えに(車は使わない)
- ☐ 電話は使わない

無理はしない
3日



- ☐ 水、食料、毛布、タオル、着替えなど生活必需品は、備蓄でまかなう
- ☐ 町の広報、テレビ、ラジオなどから情報を入手
- ☐ 家を離れるときは、行き先メモを玄関に貼る
- ☐ 壊れかけた家に入らない
- ☐ 余震に注意
- ☐ 自主防災組織を中心に行動し、集団生活のルールを守る
- ☐ ゆずりあいの心を持とう

●こんな場合は

●屋内では

- ・あわてて飛び出さない。
- ・頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる。
- ・ざぶとんなどで頭を守る
- ・家具、ロッカーの転倒、テレビ、パソコンの落下などに注意。

●デパートでは

- ・かばんなどで頭を守り、ショーウィンドーや売り場から離れ、壁際に避難。係員の指示に従う。
- ・エレベーターに乗っている場合は、最寄の階で降りる。
- ・エレベーターでの避難はしない。階段で避難。

●路上では

- ・かばんなどで頭を守り、空き地や公園へ避難。建物、ブロック塀、自動販売機、電柱などから離れる。
- ・看板やガラスの落下に注意。

●電車などにのっているときは

- ・つりかわ、手すりにつかまる。勝手に車外に飛び出さずに係員の指示に従う。

●自動車にのっているときは

- ・ハザードランプを点灯させ、ハンドルをしっかり握り、ゆっくりスピードを落とす。
- ・道路の左側に車を寄せ、エンジンを切る。
- ・揺れがおさまるまで車外に出ず、カーラジオで地震情報を聴く。
- ・避難するときは、キーを付けたままで（ドアロックをしない）。
- ・車検証や貴重品は携帯する。

●海岸付近では

- ・ただちに高台などに避難し、津波情報をよく聴く（警報・注意報が解除されるまで絶対、海岸などの低地に近寄らない。）

●山、急な傾斜地、川べりでは

- ・崩れる心配があるので、崖、川べりなど危険な場所から離れる。

●緊急地震速報の利用 — 周囲の状況に応じて慌てずにまず身の安全を確保する —

緊急地震速報とは

最大震度5弱以上と推定された地震の際に、強い揺れ（震度4以上）が予測される地域の名前を、強い揺れがくる前にお知らせする情報です。

※震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れの発生に間に合わないことがあります。

●家庭では

頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる
あわてて外へ飛び出さない

●人がおおぜいいる施設では

係員の指示に従う
落ち着いて行動あわてて出口に走り出さない

●屋外(街)では

ブロック塀の倒壊等
看板や割れたガラスの落下に注意し、ビルのそばから離れる

●鉄道・バス乗車中では

つり革、手すりに
しっかりつかまる

●エレベーターでは

最寄りの階で停止させ
すぐに降りる

●山やがけ付近では

落石やがけ崩れに注意

●自動車運転中は

あわててブレーキをかけない
ハザードランプを点灯し、
揺れを感じたらゆっくり停止

1. 地震に備えよう

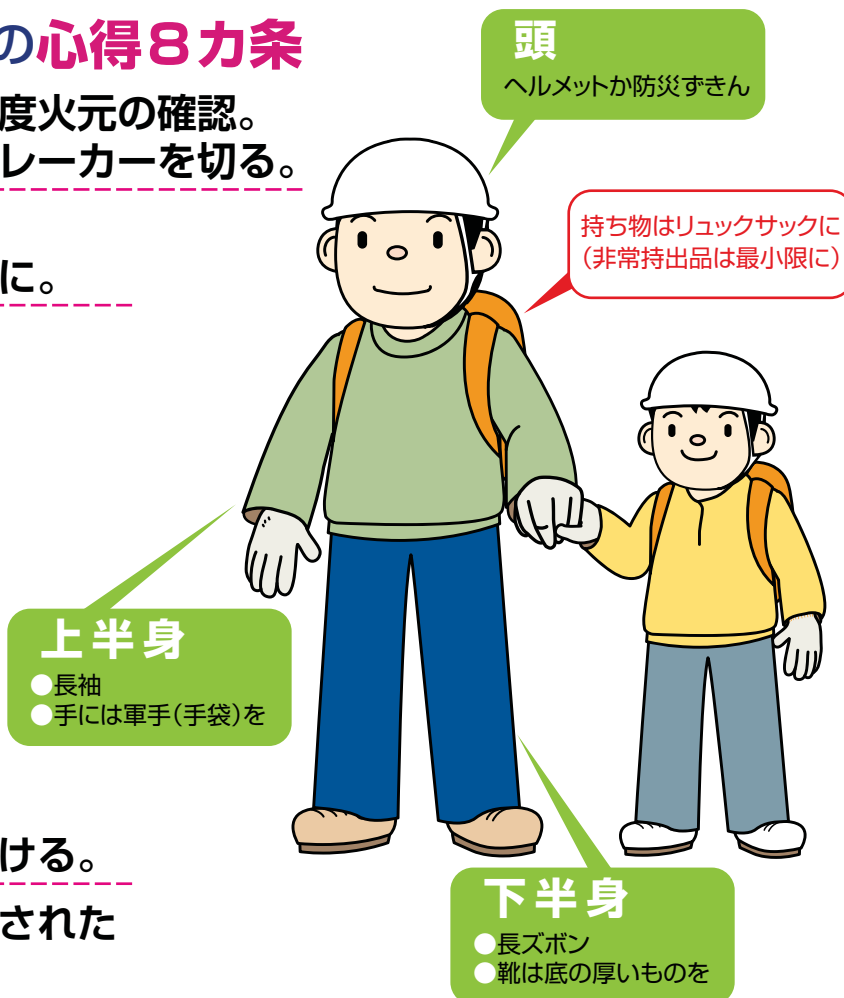
避難するときは

●いつ避難するのか

- ① 家が倒れる危険があるとき
- ② 初期消火が出来ず天井まで火が燃え上がったとき
- ③ 津波や土砂崩れの恐れがあるとき

●安全に避難するための心得8カ条

- 1 避難する前に、もう一度火元の確認。
ガスの元栓を閉め、ブレーカーを切る。
- 2 安全な服を着る。
頭や手足の保護も万全に。
- 3 荷物は必要最小限に。
- 4 安否情報や避難先を書いたメモを残す。
- 5 必ず徒歩で避難する。
車は厳禁！
- 6 お年寄りや子どもは、
手をしっかり握る。
- 7 塀ぎわ、狭い道、
がけや川のそばは、避ける。
- 8 できるだけ集団で指定された
避難所へ行く。



応急手当の方法

止血

- きれいなガーゼ、ハンカチ等を傷口に当てて圧迫する。
- 大きな血管からの出血の場合で、片手で圧迫しても止血しない時は傷口より心臓に近い動脈をタオルなどで強くしばって止血する。30分以上は締め付けないようにしましょう。



やけど

- すぐに冷やす。水道水などのきれいな冷水を使い、患部に直接強い水圧をかけないように心がけることが大切。
- 多量の水がない場合は、清潔な布を水に浸したものを患部に当てて冷す。



骨折

- 骨折の部分に副子(副木)をあてて安静を保つようにする。(副子は雑誌を丸めたものでも可)
- 副子は骨折部の上下の関節を含めての長さとし、じゅうぶん硬さ、幅のあるものを使う。副子と体の間には、必ずタオルなどの当て物を入れる。



●災害時に助けが必要な人を、 みんなでサポートしましょう!

目の不自由な人

目が不自由な人を誘導するときは、声をかけながら、肘のあたり(杖を持っている場合は持っていない方の肘)に軽く触れるか腕をかして、半歩くらい前をゆっくり歩きましょう。



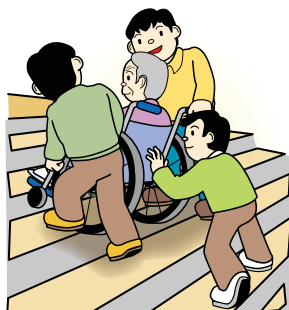
耳が不自由な人

耳が不自由な人と話すときは、近くに寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。また、筆談も有効です。



肢体の不自由な人

それぞれの人に適した誘導方法で臨機応変に対処しましょう。車椅子の場合は、階段では必ず3人で協力して、背中を下に向け恐怖感を与えないようにしましょう。



高齢者

背負ったり、肘や肩につかまってもらって誘導しましょう。危険箇所は指差し確認などして、注意を促しましょう。



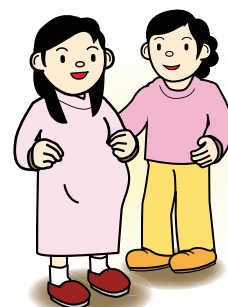
外国人・旅行者

災害状況の把握ができない、地理に対する知識が少ないことなどにより、迅速な行動をとることが困難な場合があるので、避難場所や危険箇所など、避難に必要な情報を伝えましょう。外国人など言葉の通じない人には身振り手振りで誘導しましょう。



妊婦・乳幼児

妊婦や乳幼児を抱える母親などには、困っていることがないかすすんで声をかけましょう。



●地域でとりくもう

地域ぐるみの助け合い

- 「向こう三軒両隣」ということばのように、日ごろから、近所同士の交流を持ち、いざというときに互いに助け合える人間関係を作っておくことが大切です。
- 高齢者や体の不自由な方など、個人では避難が困難な方もいらっしゃる。これらの人は、身内の手助けとともに、地域の人達が協力して支援することが大切です。

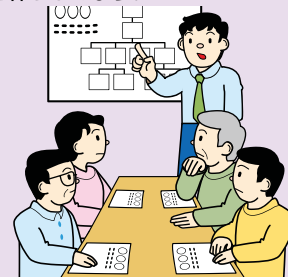
地域の状況を知る

ガケや川などの危険箇所、安全な避難順路など、地域の人みんなで自分たちのまちのことを調べておきましょう。



自主防災組織の活動

救出、救助の仕方や、住人の安否確認の方法など、みんなで検討し、訓練を行うなどして強い組織を作りましょう。



1. 地震に備えよう

避難生活

●避難所での心得

避難所では、避難してきている人たちみんなが災害に遭い、みんながつらい思いをしています。こんなときだからこそ、一人ひとりが思いやりを持ち、協力し合いましょう。

助け合いと
思いやりが大切です！

避難所における心得

- ①自分がされたくないことをしないよう、周りの方への心配りをしましょう。
- ②困った人がいたら積極的に助けましょう。
- ③避難所内で決められたルールや役割は守りましょう。
- ④早く日常生活に復帰できるように考えましょう。

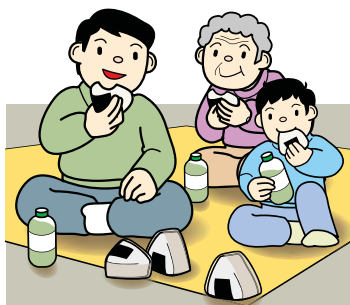


新潟中越地震での避難生活の様子（小千谷市総合体育館）

●こんなことに注意

食中毒や感染症に注意！

震災後は衛生環境が悪化し、特に避難所では食中毒や感染症が発生しやすい状況になります。これらを予防するためにも、避難所等で配られた食べ物はできるだけ早く食べ、残った場合は廃棄するようにしてください。また、手洗いやうがいを十分に行い、感染を防ぎましょう。



エコノミークラス症候群

テントや車の中などの狭い場所で避難生活を続けた際に起こりやすいのが『エコノミークラス症候群』。狭い空間で同じ姿勢のまま過ごしていると血液の循環が悪くなり、足などにできた血栓が肺、脳、心臓などの細い血管を詰まらせることで起きる症状で、最悪の場合には死亡することもあります。

- 【予防法】
- ・水分を十分にとる
 - ・適度に体を動かす
 - ・ゆったりとした衣服で寝る

悪質犯罪から身を守ろう！

避難所に避難している人々の家が荒らされるという被害が多く報告されています。貴重品は避難時に持ち出せるようにしましょう。また、混乱時にボランティアを装い、大切なものを預かるふりをして金品を奪うなどの犯罪にも注意しましょう。

ペットも家族！

避難所施設の屋内には、ペットの持ち込みは原則できません。あらかじめ、緊急時の預け先を確保しておいたり、避難用のゲージや首輪などのペット用品の準備を行っておくなど、避難生活時に、まわりの人に迷惑をかけないように心がけるのも飼い主の役目です。

●被災後の生活の心得

被災後、幸いにして、自宅で避難生活を行うことが可能であったとしても、今まで当たり前のように送っていた生活が一転します。具体的にどのような支障が出てくるのか、被災後の生活のことをできる限り知っておきましょう。

交通が止まった

- ・道路の陥没や建物の倒壊により交通は一時的にマヒ状態になります。
- ・物資の輸送および流通経路が遮断される恐れがあります。

移動は他の人の避難や救助活動の妨げとならないように、自動車を使わず徒歩や自転車で行いましょう。

携帯電話・電話が使えない!

- ・重要通信の確保のため、一般回線の利用が制限されることがあります。



安否確認は、災害用伝言ダイヤル171や携帯電話の災害用伝言板サービスを利用しましょう。

電気が止まった

- ・電気製品や充電が必要なものが使えなくなります。
- ・外灯や照明器具が使えず、夜は真っ暗になります。
- ・電気復旧時には漏電や火災が発生することがあります。

地震発生時にコンセントを抜いたり、ブレーカーを切るなどして火災予防に努めましょう。

ガスが止まった

- ・お風呂が沸かせず、ガスを使った料理や冷暖房機等が使えなくなります。



水が止まった

- ・お風呂はもちろん、炊事や洗濯なども満足にできなくなります。
- ・水洗トイレが使えず、仮設トイレの使用を余儀なくされます。
- ・飲料水に困る可能性があります。

1人1日3リットルの水を最低3日分用意しておきましょう。

お金をおろしたい!

- ・金融機関の自動現金払出機(ATM)が使用できなくなる場合があります。また、金融機関によっては、本人と確認できるものがあれば引き出しできるところもあります。

1. 地震に備えよう

東海地震に関する情報を知っておこう

●東海地震に関する情報

危険度 ↓	情報名	情報発表のタイミング	主な防災対策	住民のとりべき行動
	東海地震 観測情報	観測された現象が東海地震の前兆現象であると直ちに判断できない場合や、前兆現象とは関係ないとわかった場合に発表される。	国や自治体等では情報収集・連絡体制を強化する。	テレビやラジオの情報に注意する。
	東海地震 注意情報	観測された現象が前兆現象である可能性が高まった場合に発表される。	政府が防災に関する呼びかけを実施。必要に応じて児童・生徒の帰宅等の安全確保対策、部隊等の派遣準備などの防災行動が始まる。	テレビやラジオの情報に注意し、政府や自治体などからの呼びかけに従って行動する。
	東海地震 予知情報	東海地震の発生のおそれがあると判断した場合に発表される。	「警戒宣言」が発せられ、危険地域からの住民避難、交通規制実施など本格的な防災体制が敷かれる。	テレビやラジオの情報に注意し、地震の発生に備え、自治体等の防災計画に従って行動する。

すべての情報は、自治体の広報やテレビ・ラジオ等を通じて住民の方に伝えられます。

●警戒宣言が発令されたら、東海地震防災対策強化地域では…

電気・水道・ガス	供給は継続されます。
電話	重要通信の確保のため、一般回線の利用が制限されることがあります。
鉄道・バス	原則、強化地域内での運行を中止します。
旅客船舶	津波の影響のある強化地域周辺地域で運行を中止します。
道路	強化地域からの流出は制限されませんが、地域内への流入や走行は、避難路、緊急輸送道路を確保するため極力抑制されます。
百貨店・スーパー・コンビニ	原則、営業を停止します。耐震性の確保される店舗は、店舗の判断により営業を継続します。
金融機関	窓口業務は停止され、一部のATMは払い戻しが継続されます。
学校	東海地震の注意情報発表時の段階から、あらかじめ決められた方法で児童、生徒を帰宅させます。
病院	外来診療は中止されます。なお、安全性が確保されている場合は診療が継続されます。

※東海地震防災対策強化地域 桑名市、伊勢市、鳥羽市、尾鷲市、熊野市、志摩市、木曾岬町、南伊勢町、大紀町、紀北町

災害時の連絡方法

① 災害用伝言ダイヤル

大規模な災害が発生して電話がつながりにくいときは、安否の確認や連絡用に利用できる「災害用伝言ダイヤル171」を活用しましょう。「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言を録音・再生してください。利用の開始や録音件数(最大10件)など、利用条件についてはNTTが決定し、テレビ・ラジオなどを通じてお知らせします。

録音方法

171 → 1 → 0596 → 自宅の電話番号 → 伝言を録音する

案内放送が
流れます。

市外局番が
必要です。

30秒以内

再生方法

171 → 2 → 0596 → 自宅の電話番号 → 伝言を聞く

案内放送が
流れます。

市外局番が
必要です。

※災害用伝言ダイヤルは、一般電話の他に公衆電話、携帯電話、PHSからも利用できます。

被災地内からも、被災地外からも被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

◎体験期間 毎月1日(1月1日は除く)、正月三が日(1月1日正午～1月3日午後11時)
毎年1月15日～1月21日(防災とボランティア週間)、
8月30日～9月5日(防災週間)

◎NTT以外の電話サービスまたは、IP電話をご利用の方は、ご契約されている通信会社へ
事前にご確認ください。

② 災害用伝言板サービス

災害発生時などには、携帯電話を利用して安否情報を登録でき、家族や友人の安否情報を携帯電話やパソコンから確認できます。

◎ NTTドコモ携帯電話 <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>

◎ au携帯電話 <http://dengon.ezweb.ne.jp/>

◎ ソフトバンク携帯電話 <http://dengon.softbank.ne.jp/>



各社のトップメニューから
「災害用伝言板」を開く

伝言を登録するときは → 「登録」を選択して伝言を入力する

伝言を確認するときは → 「確認」を選択し、被災地の人の携帯電話番号を入力して伝言を読む

③ 公衆電話を利用しよう

一般電話が通話できない場合でも、グレーや緑色の公衆電話(ピンク電話は除く)からは、かかりやすくなっています。

1. 地震に備えよう

津波から身を守る

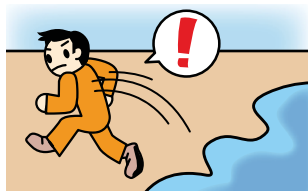
「強い揺れや長い時間の揺れを感じたら」、「津波警報・注意報が発表されたら」

ご近所の方と声をかけあい、ただちに海岸部や河川部(津波が遡上することがあります)から離れ、**急いで高台などの安全な場所に避難**する。

●津波避難の心得

1 海岸で強い揺れを感じたら避難

海岸で強い揺れを感じたら、ただちに海岸から離れ、高台などの安全な場所に避難します。決して海岸に近づかないように。



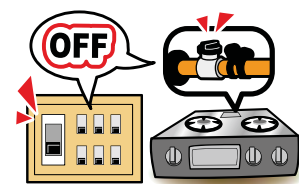
2 津波警報・注意報が出たらすぐ避難

ラジオやテレビなどから正しい情報を入手します。「津波注意報」や「津波警報」が発表されたら、ただちに高台などの安全な場所に避難します。



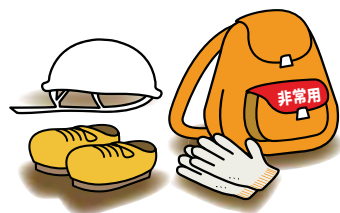
3 火の元の確認

避難する前に、火元の確認をしましょう。ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを切るのも忘れずに。



4 身軽な服装で

身軽な服装で避難しましょう。軍手や底の厚い丈夫な靴、ヘルメットや防災ずきんも役立ちます。



5 荷物は最小限

避難する時の荷物は必要最小限にし、日頃からリュックサックに入れて準備を。



6 徒歩で避難

必ず徒歩で避難します。車は厳禁! ちょっとした原因で渋滞し、津波に巻き込まれてしまいます。



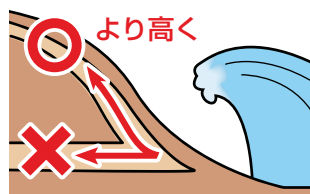
7 お年寄りや子どもを守ろう

お年寄りや子どもは、手をしっかり握って避難しましょう。ご近所どうして声をかけあい、助け合いましょう。



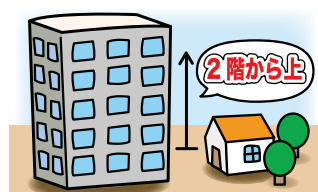
8 遠くて高い場所へ避難

できるだけ遠くて高い安全な場所を選んで避難しましょう。



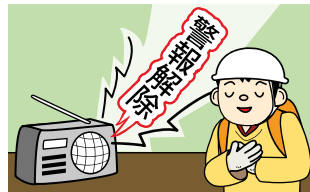
9 遅れたときはビル2階以上へ

万が一、浸水が始まったら遠くへの避難はあきらめ、近くの鉄筋コンクリート建物の2階以上に逃げて救助を待ちます。



10 自宅へ戻るのは警報・注意報解除後

自宅へ戻るのは、必ず「津波注意報」や「津波警報」が解除されたあとにします。ラジオなどで正しい情報を入手しましょう。



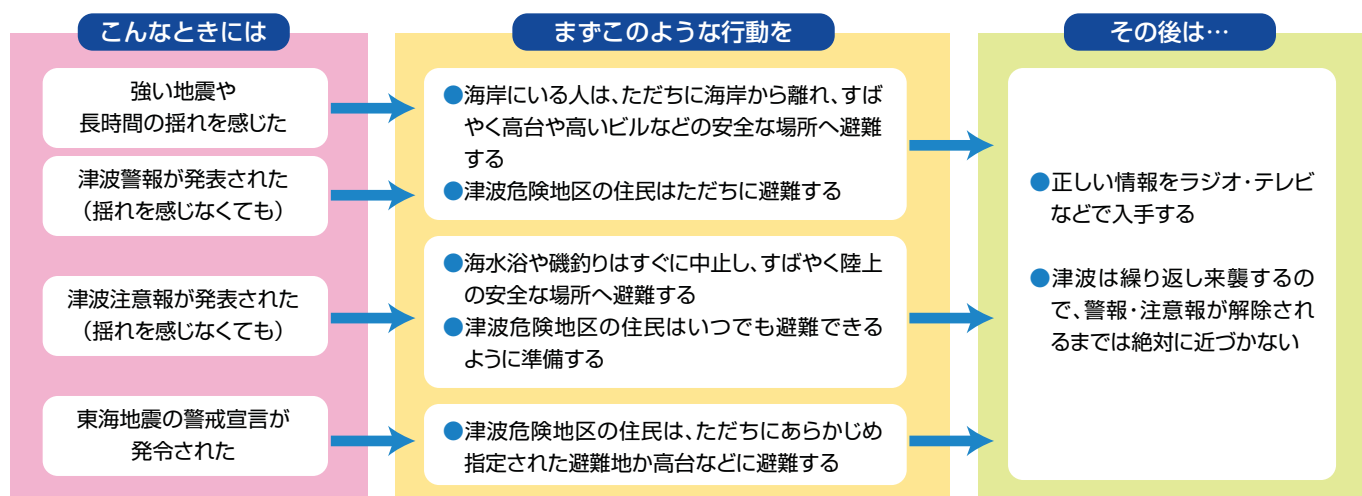
●津波予報の種類

津波予報には大津波警報、津波警報、津波注意報の3種類があります。それぞれ予想される津波の高さをメートル単位で発表するほか、津波が到着する時刻も発表されます。

*津波予報が発表される前に津波が到達する場合があります。

予報の種類		解 説	発表される津波の高さ
津波警報	大津波	高いところで3m程度以上の津波が予想されますので、厳重に警戒してください。	3m、4m、6m、8m、10m以上
	津波	高いところで2m程度の津波が予想されますので、警戒してください。	1m、2m
津波注意報	津波注意	高いところで0.5m程度の津波が予想されますので、注意してください。	0.5m

注:「津波の高さ」とは、平常の海面から、津波によって高くなった高さのこと



●津波を知る

- 津波の速さはジェット機なみ。海岸付近でも秒速10m程度の速さなので、見えてからでは逃げきれません。
- 津波の高さは地形により数倍から10倍程度になることもあります。
- 津波は引き潮で始まるとは限りません。
- 津波はくりかえし襲ってくる(第1波が最も大きいとは限らない)ので、津波警報、注意報、避難勧告が解除されるまで、自宅に戻ったり、海岸や河川に近づいたりしないようにしましょう。
- たとえ高さ50cm程度の津波でも流されて命を失うことがあります。
- 1mの津波で木造住宅は部分破壊、2mで全壊になるといわれています。



●東海、東南海、南海地震が同時発生した場合の津波到達時間

笹笛川地点への津波の到達

(「東海・東南海・南海地震対策に係わる津波シミュレーション調査報告書(三重県)」より)

津波第1波到達時間 : 39分(津波の高さ20cm程度)
最大の津波の到達時間 : 163分(2時間43分)
最大の津波の高さ : 2.14m(満潮時は3.45m)

大淀港地点への津波の到達

津波第1波到達時間 : 37分(津波の高さ20cm程度)
最大の津波の到達時間 : 166分(2時間46分)
最大の津波の高さ : 2.34m(満潮時は3.65m)

※津波の高さ及び到達時間については、ひとつの想定であり、これを上まわる場合もあります。

※伊勢湾内の活断層(白子-野間断層)を震源とする地震の場合は、最高20cm程度の津波が24分後に到達するというシミュレーション結果が出ています。

波形出力 地点名称	最大の記録		津波到達時間(分)				
	津波の高さ (m)	到達時間 (分)	津波の高さ 0.2m	津波の高さ 0.5m	津波の高さ 1.0m	津波の高さ 2.0m	津波の高さ 3.0m
明和町 笹笛川	2.14	163	39.2	51.2	60.5	160.2	
伊勢市 大淀漁港	2.34	166	37.1	47.3	58.8	117.7	166.0

2. 風水害に備えよう

大雨や強風などはこれまでに幾度となく、私たちに甚大な災害をもたらしてきました。台風や豪雨の到来は、ある程度予測できたとしても油断は禁物です。常日頃より万全な備えをしておきましょう。

●家の風水害対策

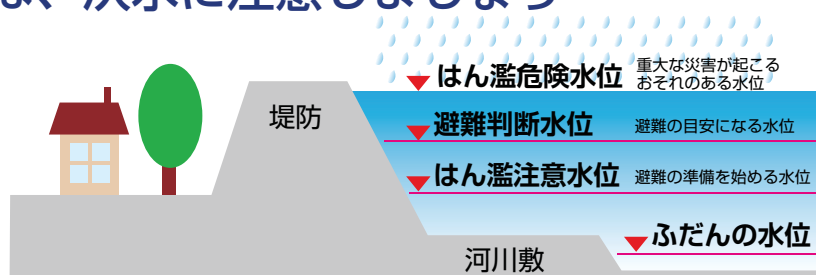
- ブロック塀や石垣の崩れを補強しておく。
- アンテナ支線の補強をしておく。
- 雨戸や窓の補強をしておく。
- 鉢、プランターなどベランダの小物を取り込む。
- 物干竿が飛ばされないようにする。
- むやみに外出しない。
- 高齢者や乳幼児、病人などを安全な場所へ避難させる。
- ラジオ、テレビやインターネットなどで気象情報にはくれぐれも注意をする。
- 町や防災関係機関広報をよく聴いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常持出し品を準備しておく。
- 外出から早く帰宅し、勤務先の家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 浸水に備えて家財道具は安全な場所へ移しておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 危険な土地ではいつでも避難できるよう準備をする。

●地域で備えよう

地域で危険箇所を調べたり、避難行動などについて話し合っておきましょう。

●近くに河川がある場合は、洪水に注意しましょう

洪水予報指定河川では、洪水予報が発表されます。国管理の河川は気象庁と国土交通省が、都道府県管理の河川は気象庁と都道府県がそれぞれ共同して洪水予報を出します。



洪水予報の種類	発表基準	自治体の対応	住民の行動
〇〇川はん濫注意情報 (洪水注意報)	はん濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備情報の発令を判断し、状況に応じて発令	必要に応じて避難の準備を
〇〇川はん濫警戒情報 (洪水警戒報)	・一定時間後にはん濫危険水位に到達が見込まれる場合 ・避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難勧告等の発令を判断し、状況に応じて発令	いつでも避難できる態勢を。 必要なら直ちに避難
〇〇川はん濫危険情報 (洪水危険報)	はん濫危険水位に到達		避難を完了
〇〇川はん濫発生情報 (洪水発生報)	はん濫の発生 (はん濫水の予報)	新たにはん濫が及ぶ区域の住民の避難誘導	新たにはん濫が及ぶ区域の住民は避難を検討・判断

※洪水予報指定河川：三重県内では、櫛田川、宮川などが該当し、県管理の河川では該当はありません。

! 避難に関する情報は3種類あります

●避難情報の種類と私たちのとるべき行動

避難準備情報

いつでも避難できるように準備をし、テレビなどの放送、町からの広報に注意しましょう。高齢者や子どもなどの要援護者は早めに避難を始めましょう。

避難勧告

指定された避難所に速やかに避難しましょう。

避難指示

避難指示が出された地区にいる人は全員、指定された避難所にただちに避難してください。

●雨の強さと降り方

1時間雨量(ミリ)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような威圧感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	
屋内(木造住宅)	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる (ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要	・側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる ・テレビ、ラジオ、インターネットなどで今後の様子に注意 ・長引きそうなら避難の心構えを	・山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり道路規制も行われる。危険地帯では避難の準備が必要。 ・都市では下水管から雨水があふれる	・都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある ・マンホールから水が噴出する ・土石流が起こりやすい ・多くの災害が発生する ・避難勧告等が出る場合がある	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要

集中豪雨

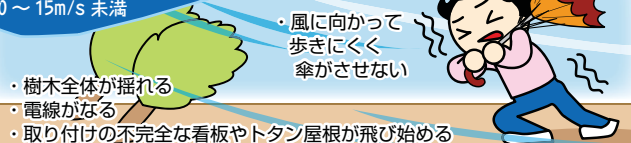
限られた地域に対して短時間に多量に雨が降ることにより、災害が生じるケースがあります。土砂災害、洪水などの被害が起きやすいので注意が必要です。

警報の発表期間中に1時間に120ミリ以上の猛烈な雨が降った場合には、「**記録的短時間大雨情報**」が発表されます。120ミリという雨は、数年に1度程度しか観測されないような雨で、災害がいつ起きてもおかしくありませんし、すでに起きている場合もあるので、よりいっそうの警戒が必要です。

●風の強さと吹き方

平均風速（m／秒）	10 以上～ 15 未満	15 以上～ 20 未満	20 以上～ 25 未満	25 以上～ 30 未満	30 以上
おおよその時速	～50km	～70km	～90km	～110km	110km～
風圧(kg重／㎡)	～11.3	～20.0	～31.3	～45.0	45.0～
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
速さの目安	一般道路の自動車	高速道路の自動車			特急列車
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない	風に向かって歩けない。転倒する人もでる	しっかりと身体を確保しないと転倒する	立ってられない。屋外での行動は危険	
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れる。電線が鳴る	小枝が折れる		樹木が根こそぎ倒れ始める	
車に乗っていて	道路の吹流しの角度が、水平（10m／秒）。高速道路で乗用車が横風に流される感覚を受ける	高速道路では、横風に流される感覚が大きくなり、通常で速度で運転するのが困難となる	車の運転を続けるのは危険な状態となる		
建造物の被害	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める	ビニールハウスが壊れ始める	鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる	ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装材がはがれ、飛び始める	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる

やや強い風 10～15m/s 未満



強い風 15～20m/s 未満



非常に強い風 20～30m/s 未満



猛烈な風 30m/s ～



2. 風水害に備えよう

洪水の時の行動

●洪水発生時をイメージして、
いざというときに備えておきましょう！

洪水発生 のおそれ

- ・家族で集まる。
- ・テレビ・ラジオをつけ、
気象情報などを収集する。
- ・家財道具を高いところへ移動。
- ・避難の準備。
- ・避難先の確認。



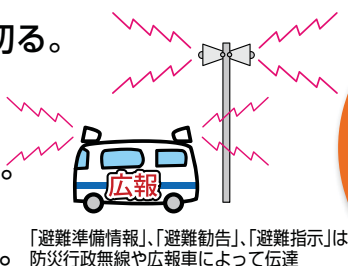
自主避難

自分で判断して
早めに避難する

避難準備情報

早めに避難を開始する
必要がある人が
避難する

- ・元栓・ブレーカーを切る。
- ・戸締りの確認。
- ・車で避難しない。
- ・落ちついて避難する。
- ・隣近所声をかけて、
助け合って避難する。



避難勧告 避難指示

対象地区では
全ての人が
避難する

- ・万が一逃げ遅れた場合は、近くの高い建物へ避難する。
- ・ラジオをつけ被害の状況や
今後の気象情報を収集する。



**はん濫
発生**

その後の 生活

- ・地域の救助活動に参加する。
- ・避難所では協力し合う。



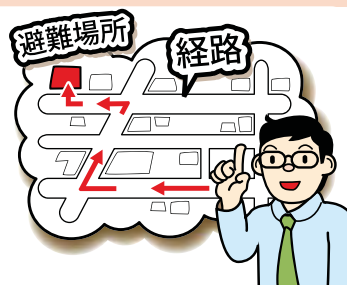
力を合わせて復旧・復興へ

●安全に避難するために●

単独行動ではなく、集団で避難しましょう。責任者の指示に従って慎重に行動します。



避難勧告に接してあわてないように、避難場所までの道順や避難情報の伝達方法などを事前に理解しておきましょう。



ラジオ、テレビで最新の気象情報、災害情報に注意しましょう。危険が迫ったときは、防災無線や広報車などからの避難の呼びかけに注意し、早めの避難を心がけましょう。



避難する時の荷物は、貴重品、必要な食料、衣類、日用品など必要最低限にしましょう。また、普段から非常持出品の準備をしましょう。



戸締り



元栓



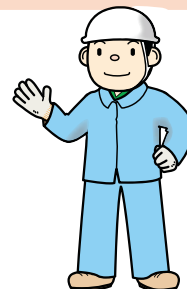
ブレーカー



避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



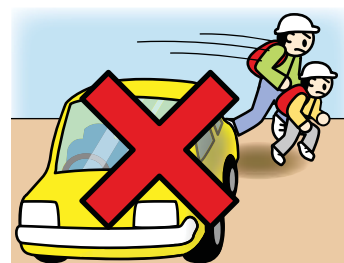
動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、長靴よりひもでめられる運動靴とかトレッキングシューズをはきましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。



はぐれないように互いの身体をロープで結んで避難しましょう。特に、子どもから目を離さないように！



お年寄り・身体の不自由な人は背負って避難しましょう。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用しましょう。



車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げとなります。また浸水すると動かなくなるので使わないで下さい。

水深が50cm(ひざ上までの水)を上回る場所での避難は危険です。(水の流れが速い場合は、20cm程度でも歩行できないことがあります。)それ以上になったら建物の2階以上または屋根の上で救助を待ちましょう。



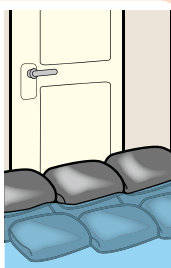
浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認しながら歩きましょう。



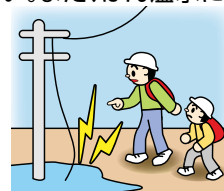
ポリタンクなど軽いものを屋外に置いておくと、浸水によって流れていってしまうので、事前に屋内に移しておきましょう。



扉の下の際間から水が入ってくるので、「水のう」や「土のう」、板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぐとよいでしょう。



切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないで下さい。また、はん濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。



2. 風水害に備えよう

土砂災害

●土砂災害が起こる前には前兆があります。

しっかりと、見逃さないようにしよう。

【土砂災害発生の種類とその前兆】

①急傾斜地崩壊危険箇所 (がけ崩れ)

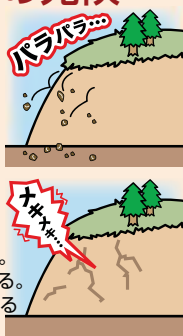
豪雨、または地震により地盤がゆるみ、突然崩れ落ちる現象を「がけ崩れ」と言います。崩れた土砂は斜面の高さの2～3倍にあたる距離まで届くこともあります。国内で最も件数の多い土砂災害です。突発的に起こり、瞬時にして崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が大きくなります。

がけ崩れの兆候

小石がバラバラ落ちてくる。

がけに亀裂がはいる。

- 斜面からの水が濁る。
- がけから水がわき出る。
- 地下水やわき水が止まる。
- がけから木の根が切れるなどの音がする。



②地すべり危険箇所 (地すべり)

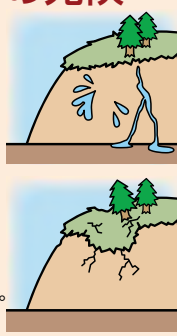
比較的緩やかな斜面において、地中の粘土層などの滑りやすい面が地下水などの影響で、ゆっくり動き出す現象です。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路、鉄道などに大きな被害をおよぼします。

地すべりの兆候

がけや斜面から水が噴き出す。

地面がひび割れたり陥没する。

- 井戸や沢の水が濁る。
- 家や擁壁に亀裂が入る。
- 樹木や電柱が傾く。



③土石流危険渓流 (土石流)

谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れだして起こります。破壊力が大きく、また流れる速度も速いため、大きな被害をもたらします。

土石流の兆候

山鳴りがする。

急に川の水が濁り、流木が混ざり始める。

- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- 立木がさける音や石がぶつかり合う音が聞こえる。



土砂災害 警戒情報

大雨警報を発表している中で土砂災害が発生するおそれが高まったときに、市町長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、三重県と津地方気象台が共同で発表する防災気象情報で、「土石流・がけ崩れ」等を対象とします。

この情報は、津地方気象台から県を通じて市町に伝達するとともに、報道機関を通じて住民への周知が図られます。また、三重県が提供する土砂災害情報提供システムからは、土砂災害危険度情報を知ることができます。

○三重県土砂災害情報提供システム http://www1.sabo.pref.mie.jp/mie_gis/start.php

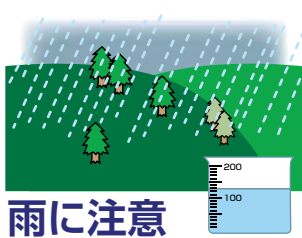
安全に
避難する
ために



雨に注意

土砂災害の原因の多くは雨。場所によってちがいますが、降雨量が1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上を超えたら要注意。

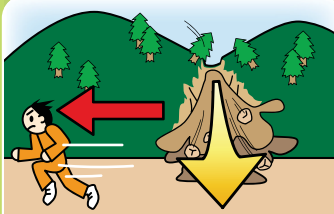
- 土砂災害は生命の危険が高いため、災害発生前に避難を完了しておく必要があります。
- 前兆現象を確認したら直ちに避難しましょう。



逃げ方を覚える

土石流のスピードは速いため、進行方向に逃げてもすぐに追いつかれてしまいます。流れに対して直角に逃げましょう。

- 避難する際は、他の土砂災害危険区域は通らないようにしましょう。



避難場所を 決めておく

普段から家族みんなで避難場所や順路を決めておきましょう。そうすれば、連絡が取れない時でも落ち合うことができます。

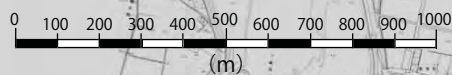


3. 避難場所一覧

番号	避難所名	所在地	電話番号	収容可能人数	分類	
					風水	地震
1	大淀小学校	明和町大字大淀2 6 5 0	55-2160	190	○	△
2	山大淀公民館	〃 大字山大淀3 0 0 4-1	55-4014	40	○	△
3	東行部集会所	〃 大字行部3 7 6-1	55-4303	15	○	△
4	下御糸小学校	〃 大字内座3 6 7	55-2219	180	△	△
5	ささふえ保育所	〃 大字佐田2 7 3	55-3857	40	△	△
6	明和町人権センター	〃 大字佐田4 5 8-2	55-3052	30	○	△
7	上御糸小学校	〃 大字佐田2 0 2 6	55-2201	190	○	○
8	明和町総合体育館	〃 大字坂本1 2 1 6-1	52-7130	580	○	○
9	明和町担い手センター	〃 大字大淀5 9 5	55-4401	120	○	○
10	斎宮小学校	〃 大字斎宮3 3 8 5-2	52-5026	230	○	○
11	斎宮幼稚園	〃 大字竹川1 6 0	52-1908	70	○	○
12	みどり保育所	〃 大字上村1 0 3	52-2706	40	○	○
13	上野公民館	〃 大字上野6 5 2		20	○	○
14	新茶屋公民館	〃 大字新茶屋7 6-7		40	○	○
15	明星小学校	〃 大字明星1 5 5 3	52-5064	210	○	○
16	本郷会館	〃 大字明星4 7 7-1	52-2323	20	○	○
17	修正小学校	〃 大字有甞中8 1 6-1	52-5065	150	○	○
18	有甞中区第一公民館	〃 大字有甞中5 0 6-1		30	○	○
19	とづか会館	〃 大字養村3 4	52-7736	20	○	○
20	斎宮ふれあいプラザ	〃 大字斎宮8 9 1-5		90	○	○
21	坂本公会堂	〃 大字坂本1 3 9 3		30	○	○
22	明和町中央公民館	〃 大字馬之上9 4 4-6	52-7132	210	○	○
23	みょうじょうこども園	〃 大字明星1 0 6 0	53-0500	60	○	○

△:津波浸水想定区域内、洪水浸水想定区域内

4. 防災マップ (その1) 北部エリア



●避難場所

番号	避難所名	所在地	電話番号
①	大淀小学校	明和町大字大淀 2650	55-2160
②	山大淀公民館	◇ 大字山大淀 3004-1	55-4014
③	東行部集会所	◇ 大字行部 376-1	55-4303
④	下御糸小学校	◇ 大字内座 367	55-2219
⑤	ささふえ保育所	◇ 大字佐田 273	55-3857
⑥	人権センター	◇ 大字佐田 458-2	55-3052
⑦	上御糸小学校	◇ 大字佐田 2026	55-2201

●町内の医療機関

番号	病院名	所在地	電話番号
①	もりた内科医院	明和町大字大淀 2445-3	55-3988
②	三重ハートセンター	◇ 大字大淀 2227-1	55-8188
③	西口医院	◇ 大字前野 415-8	55-2207

●ヘリポート一覧表

名称	所在地	面積(㎡)	水没危険
大淀小学校グラウンド	明和町大字大淀 2650	115×48 5520	有
上御糸小学校グラウンド	◇ 大字佐田 2026	55×55 3025	無
下御糸小学校グラウンド	◇ 大字内座 367	80×52 4160	有



記号凡例	
①	避難所
●	役場
●	消防署・交番所
▲	消防団消防車庫
○	公共施設
〰〰〰	急傾斜地崩壊危険箇所
〰〰〰	冠水地域
〰〰〰	隧道冠水注意箇所
—	国道・県道・主要町道など
—	その他町道など
—	川
—	池
—	鉄道
⚕	医療機関
介	介護保険サービス事業所
🏠	津波緊急避難場所

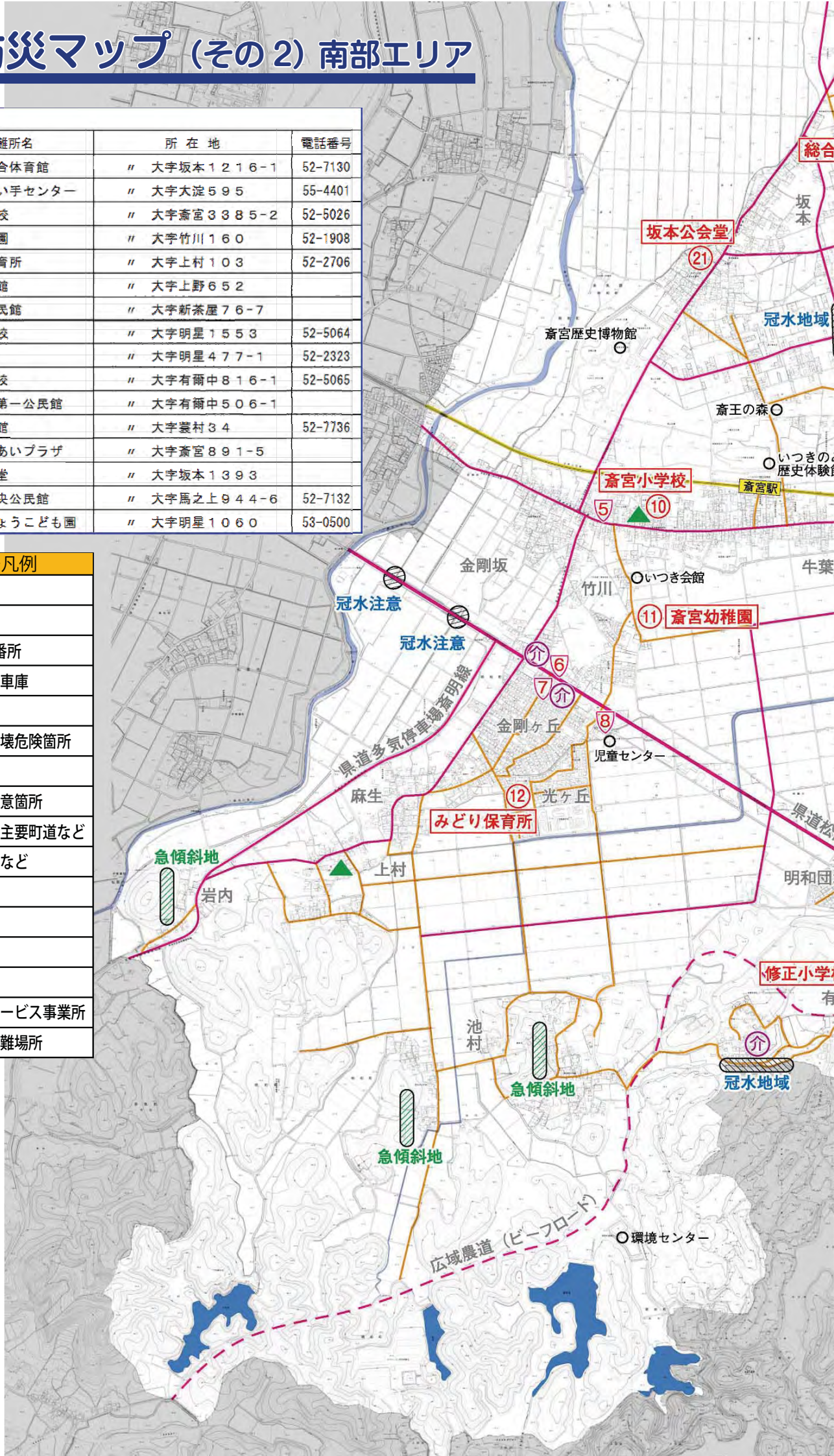
4. 防災マップ (その2) 南部エリア

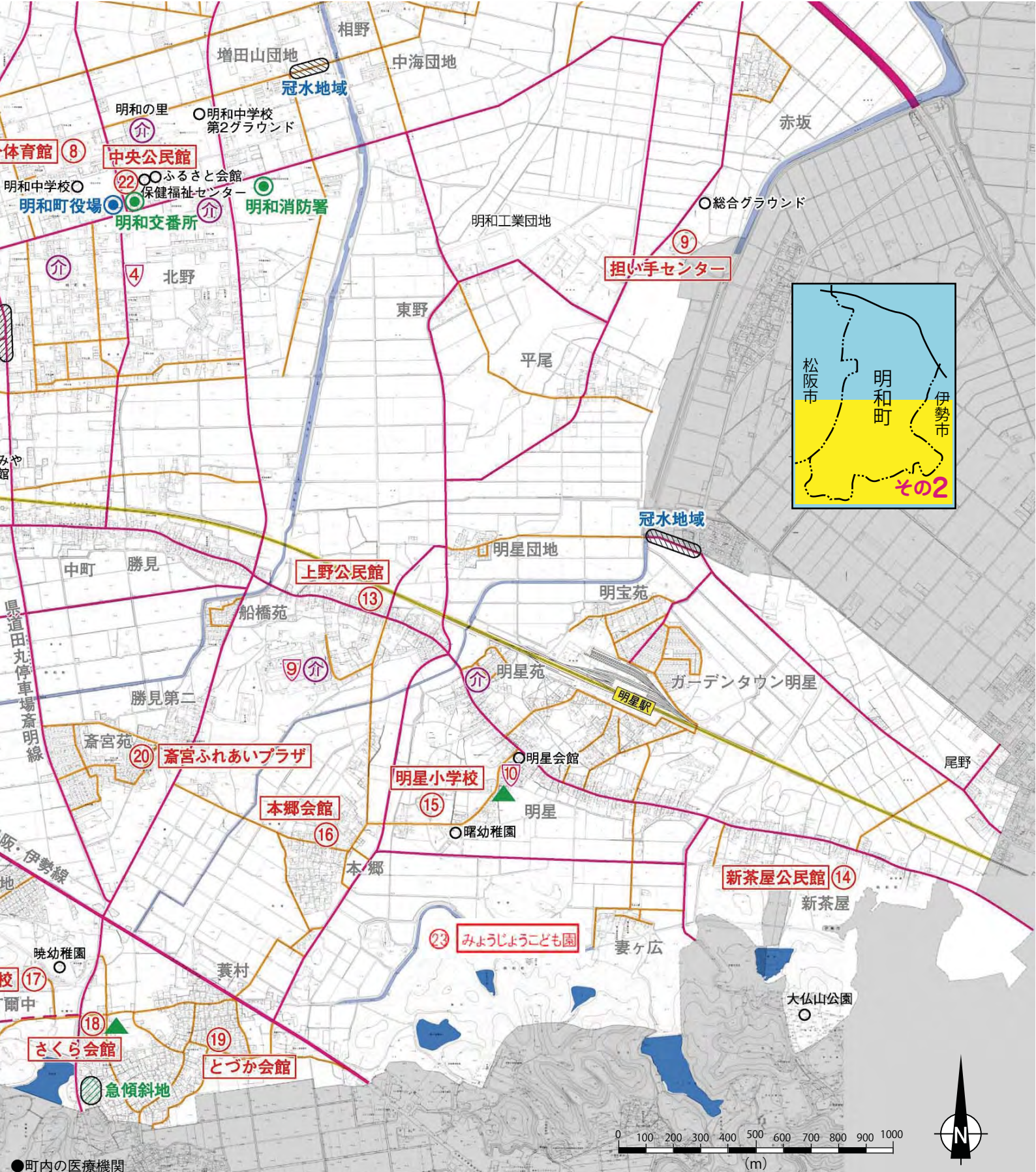
●避難場所

番号	避難所名	所在地	電話番号
⑧	明和町総合体育館	〃 大字坂本 1 2 1 6 - 1	52-7130
⑨	明和町担い手センター	〃 大字大淀 5 9 5	55-4401
⑩	斎宮小学校	〃 大字斎宮 3 3 8 5 - 2	52-5026
⑪	斎宮幼稚園	〃 大字竹川 1 6 0	52-1908
⑫	みどり保育所	〃 大字上村 1 0 3	52-2706
⑬	上野公民館	〃 大字上野 6 5 2	
⑭	新茶屋公民館	〃 大字新茶屋 7 6 - 7	
⑮	明星小学校	〃 大字明星 1 5 5 3	52-5064
⑯	本郷会館	〃 大字明星 4 7 7 - 1	52-2323
⑰	修正小学校	〃 大字有爾中 8 1 6 - 1	52-5065
⑱	有爾中区第一公民館	〃 大字有爾中 5 0 6 - 1	
⑲	とづか会館	〃 大字葦村 3 4	52-7736
⑳	斎宮ふれあいプラザ	〃 大字斎宮 8 9 1 - 5	
㉑	坂本公会堂	〃 大字坂本 1 3 9 3	
㉒	明和町中央公民館	〃 大字馬之上 9 4 4 - 6	52-7132
㉓	みょうじょうこども園	〃 大字明星 1 0 6 0	53-0500

記号凡例

	避難所
	役場
	消防署・交番所
	消防団消防車庫
	公共施設
	急傾斜地崩壊危険箇所
	冠水地域
	隧道冠水注意箇所
	国道・県道・主要町道など
	その他町道など
	川
	池
	鉄道
	医療機関
	介護保険サービス事業所
	津波緊急避難場所





●町内の医療機関

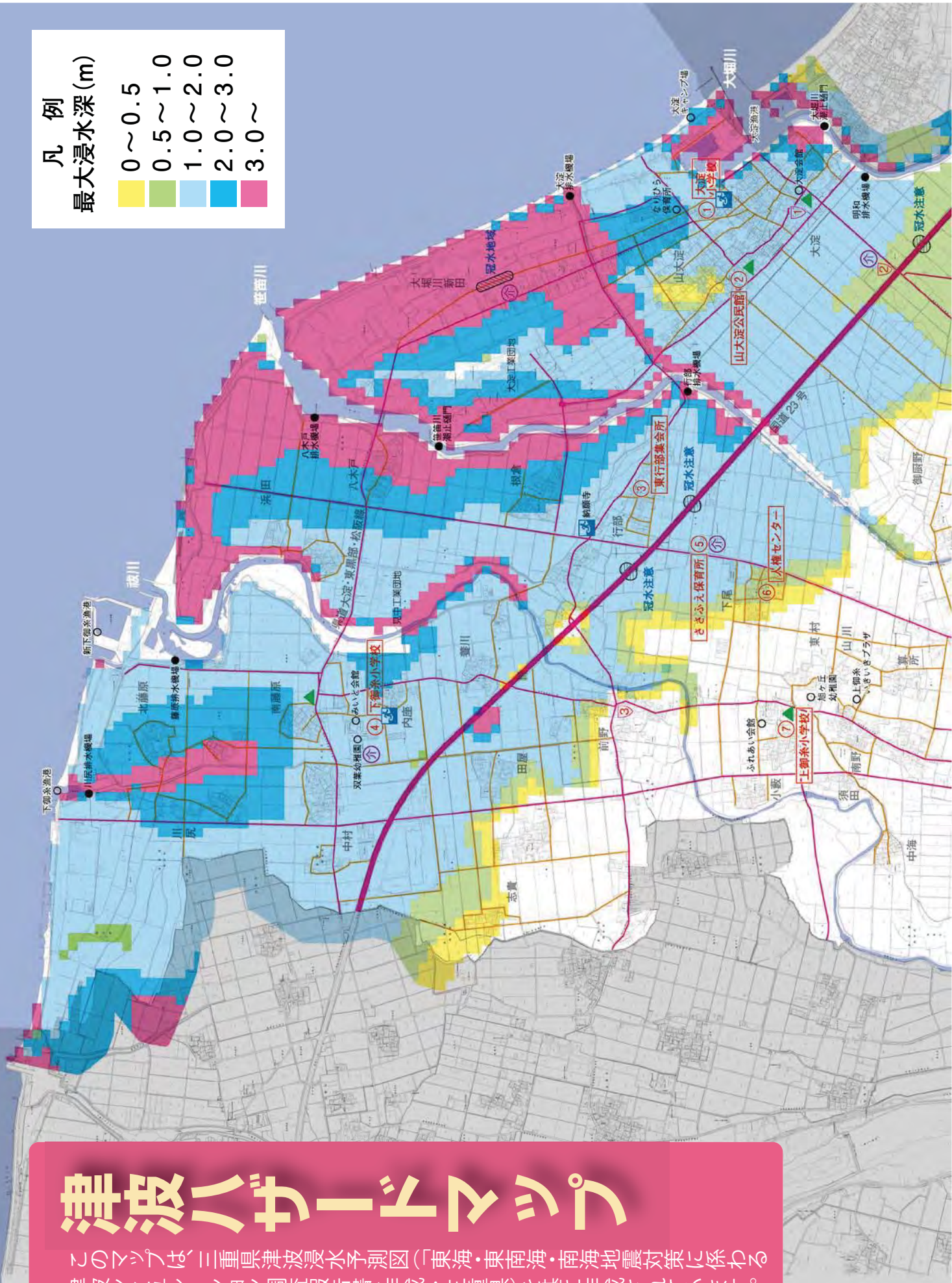
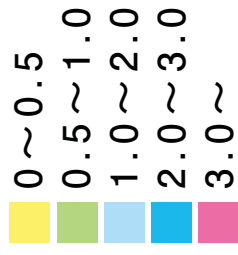
番号	病院名	所在地	電話番号
④	梅田クリニック	明和町大字斎宮 3726-2	53-0700
⑤	北島医院	〃 大字竹川 353	52-5005
⑥	櫛谷内科クリニック	〃 大字金剛坂 816-66	53-1100
⑦	こまだ神経内科	〃 大字金剛坂 816-9	53-0001
⑧	上野整形外科	〃 大字竹川 33-31	52-7220
⑨	済生会明和病院	〃 大字上野 435	52-0131
⑩	山田整形外科・明星診療所	〃 大字明星 1749-1	52-5200

●ヘリポート一覧表

名称	所在地	面積(㎡)	水没危険
明和町総合グラウンド	明和町大字大淀向野 595	100×100 10000	無
明和中学校グラウンド	明和町大字坂本 1264-41	130×85 11050	無
斎宮小学校グラウンド	明和町大字斎宮 3385-2	90×70 6300	無
明星小学校グラウンド	明和町大字明星 1553	75×65 4875	無
修正小学校グラウンド	明和町大字有爾中 816-1	70×50 3500	無
斎宮歴史博物館 (斎宮跡ふるさと南部公園)	明和町大字竹川 559-18	130×100 13000	無

5. 津波・洪水ハザードマップ①

凡 例
最大浸水深 (m)



津波ハザードマップ

このマップは、三重県津波浸水予測図(「東海・東南海・南海地震対策に係わる津波ハザードマップ」調査報告書)作成：(三重県)を基に作成されています。



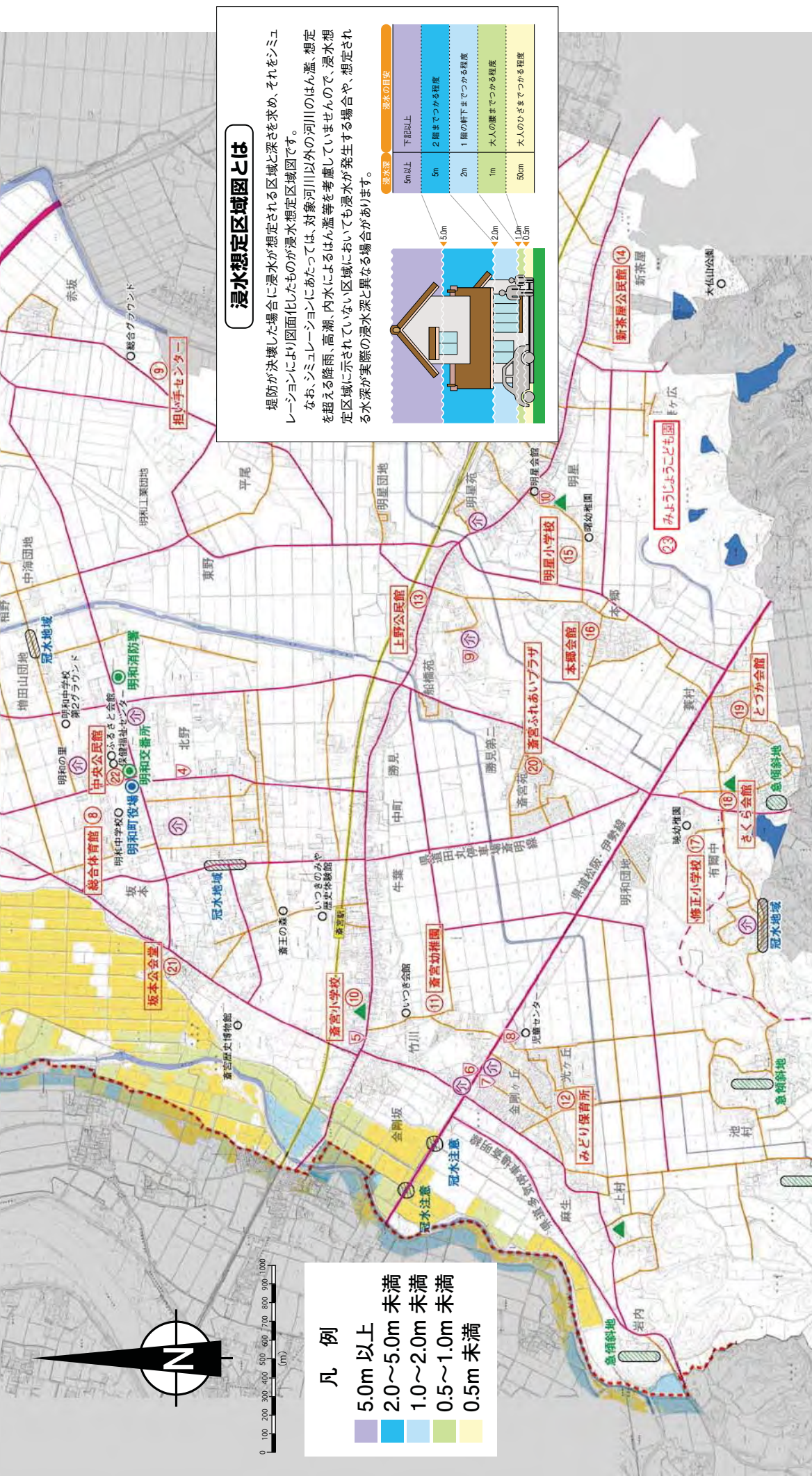
■三重県津波浸水予測図について

- 1.この図は、満潮時(T.P.+1.31m)に東海・東南海・南海地震が同時発生した場合(海岸・河川の防潮施設が機能しなかった場合を想定しています)の三重県沿岸地域における最大浸水深の分布図です。
- 2.想定される一つの地震・津波モデルによる予測結果ですので、これを上まわる規模の地震や津波が発生する可能性もあります。浸水予測区域(着色区域、津波浸水危険領域)に近接する領域にも津波の浸水被害が及び可能性もありますので、着色されていないでも準危険領域として避難計画等をお考え下さい。

記号凡例



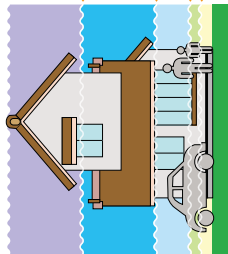
このマップは、**櫛田川浸水想定区域図**(作成：国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所)を基に作成されています。



浸水想定区域図とは

堤防が決壊した場合に浸水が想定される区域と深さを求め、それをシミュレーションにより図面化したものが浸水想定区域図です。

なお、シミュレーションにあたっては、対象河川以外の河川のはん濫、想定を超える降雨、高潮、内水によるはん濫等を考慮していませんので、浸水想定区域に示されていない区域においても浸水が発生する場合があります、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。



■ 櫛田川浸水想定区域図について

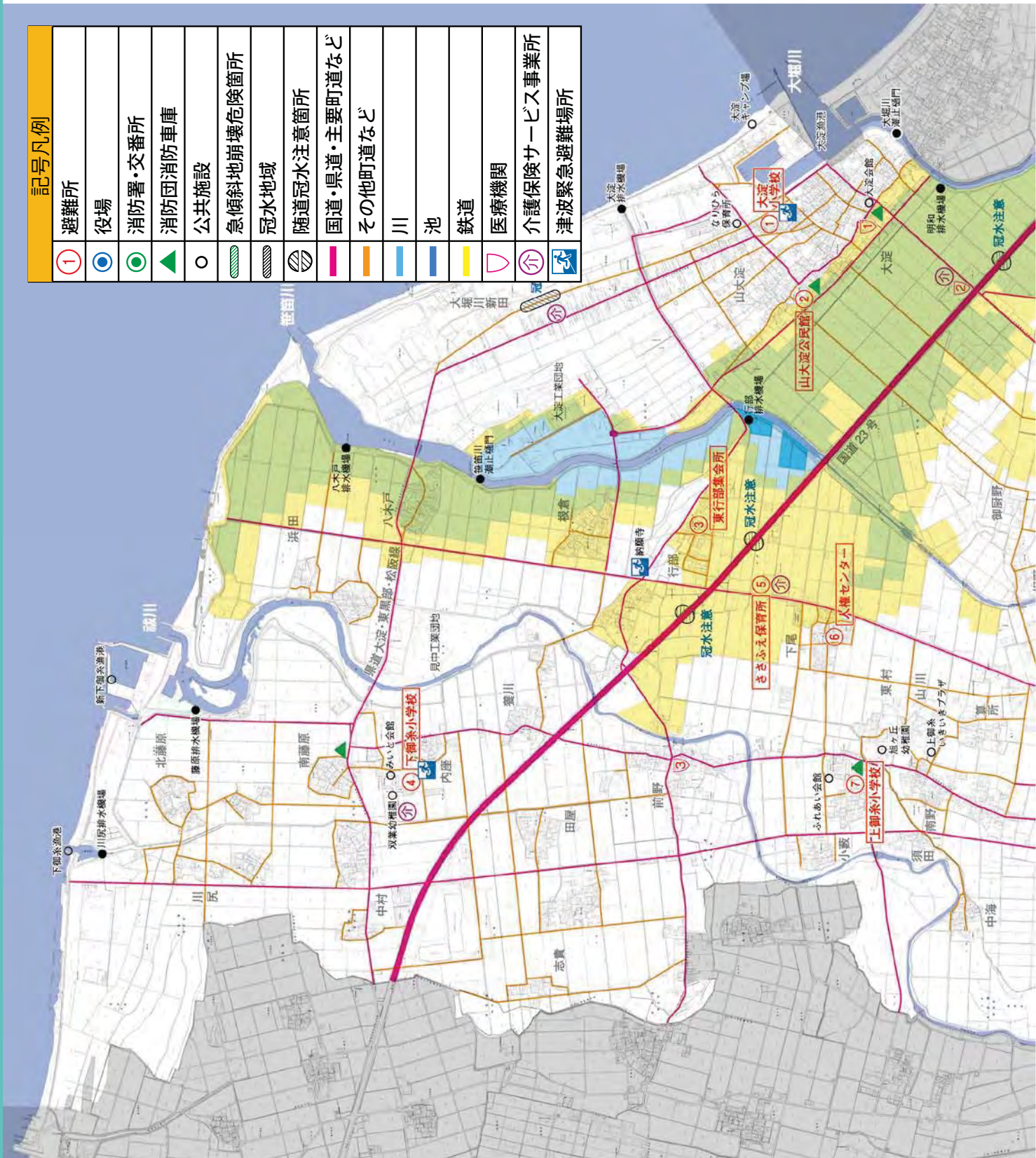
1. この浸水想定区域等は、指定時点の櫛田川等の河道、ダムの整備状況を勘案して、洪水防衛に関する計画の基本となる概ね100年に1回程度起こる大雨が降ったことにより、各河川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。

2. シミュレーションにあたっては、支派川の破堤はん濫、想定を超える降雨、高潮、内水によるはん濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合があります、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

笹笛川防災ハザードマップ

このマップは、笹笛川浸水想定区域図(作成：三重県松阪建設事務所)を基に作成されています。

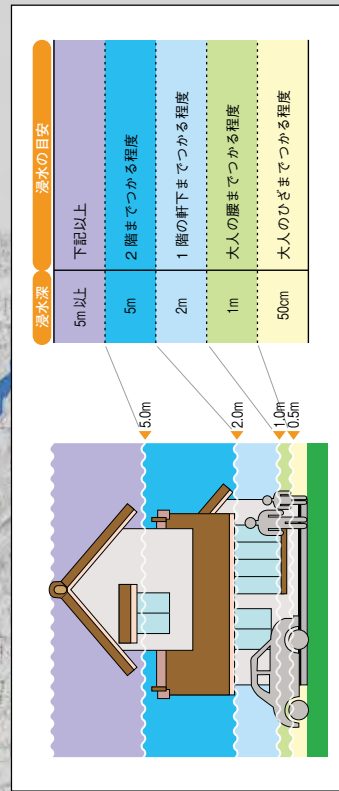
記号凡例	
①	避難所
●	役場
●	消防署・交番所
▲	消防団消防車庫
○	公共施設
▨	急傾斜地崩壊危険箇所
▨	冠水地域
▨	隧道冠水注意箇所
▨	国道・県道・主要町道など
▨	その他町道など
▨	川
▨	池
▨	鉄道
▽	医療機関
介	介護保険サービス事業所
水	津波緊急避難場所





■ 笹笛川 浸水想定区域図について

1. この浸水想定区域等は、平成19年3月末時点（いっき橋～第2笹笛橋間は暫定改修完了時点）の笹笛川の河道の整備状況を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる降雨である概ね30年に1回程度起こる大雨が降ったことにより笹笛川がはん濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
2. このシミュレーションの実施にあたっては、支派川のはん濫、想定を超える降雨、高潮、内水によるはん濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合があります。想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

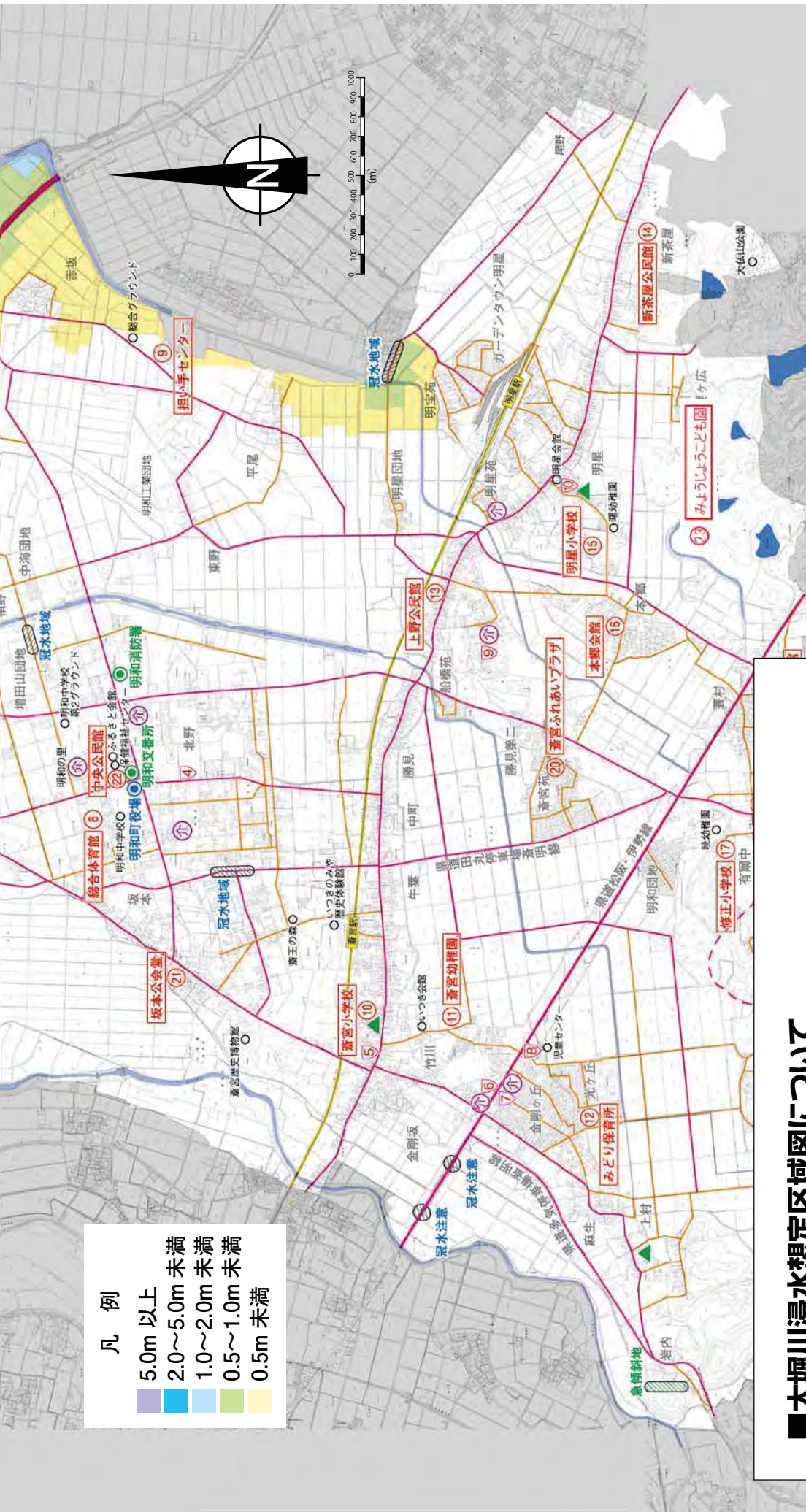


大堀川防災ハザードマップ

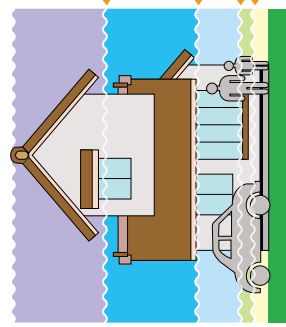
このマップは、大堀川浸水想定区域図(作成：三重県 伊勢建設事務所)を基に作成されています。

記号凡例	
①	避難所
●	役場
○	消防署・交番所
▲	消防団消防車庫
○	公共施設
▨	急傾斜地崩壊危険箇所
▨	冠水地域
▨	随道冠水注意箇所
▨	国道・県道・主要町道など
▨	その他町道など
▨	川
▨	池
▨	鉄道
▽	医療機関
⤴	介護保険サービス事業所
♿	津波緊急避難場所





浸水深		浸水の目安	
5m以上	下記以上	2階までつかかる程度	2階までつかかる程度
2m	1階の軒下までつかかる程度	1階の腰までつかかる程度	1階の腰までつかかる程度
1m	大人の腰までつかかる程度	大人のひざまでつかかる程度	大人のひざまでつかかる程度
50cm	大人のひざまでつかかる程度		



大堀川浸水想定区域図について

- 1.この浸水想定区域は、現状の河道整備状況で洪水防衛に関する計画の基本となる降雨である概ね15年に1回程度起こる大雨が降ったことにより大堀川の決壊等によってはん濫した場合に浸水が予想される区域です。
- 2.この浸水想定区域は、想定を超える降雨が発生した場合や、支派川のはん濫、高潮、内水によるはん濫の影響等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水の可能性はあります。

凡 例	
5.0m 以上	未 満
2.0～5.0m	未 満
1.0～2.0m	未 満
0.5～1.0m	未 満
0.5m 未 満	未 満

6. 防災関係機関一覧

防災関係機関一覧

機 関 名	所 在 地	電 話 番 号
明 和 町 役 場 （防災企画課）	明和町大字馬之上 945	0596-52-7110
松阪地区広域消防組合消防本部	松阪市川井町 1001-1	0598-25-0119
松阪地区広域消防組合明和消防署	明和町大字佐田 924-78	0596-52-5600
松 阪 警 察 署	松阪市中央町 366-1	0598-53-0110
明 和 交 番 所	明和町大字馬之上 946-1	0596-52-2881
明 和 郵 便 局	明和町大字斎宮 3815-4	0596-52-3806
多気郡農業協同組合本店	明和町大字坂本 1240-3	0596-52-0121
伊勢湾漁業協同組合大淀支所	明和町大字大淀甲2642-6	0596-55-2025
伊勢湾漁業協同組合下御糸支所	明和町大字南藤原 740	0596-55-2218
明 和 町 商 工 会	明和町大字馬之上 945	0596-52-5235
明 和 町 観 光 協 会	明和町大字斎宮 2811	0596-52-0055
明 和 町 社 会 福 祉 協 議 会	明和町大字馬之上 917-1	0596-52-7056
陸上自衛隊明野航空学校	伊勢市小俣町明野 5593-1	0596-37-0111
松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)	松阪市大津町 731-6	0598-50-2200

ライフライン等関係機関連絡先

- 中部電力(株)松阪営業所…………… 0 5 9 8 - 2 3 - 1 0 0 0
- 近畿日本鉄道株式会社 明星駅…………… 0 5 9 6 - 5 2 - 5 1 5 8
- NTT…………… 1 1 3 (故障時)
- 三重交通株式会社 松阪営業所…………… 0 5 9 8 - 5 1 - 5 2 4 0



7. 防災メモ

家族の連絡先

氏 名	連絡先(勤務先・学校など)	電話番号	携帯電話	血液型	保険証番号	メモ

緊急連絡先メモ

連絡先	電話番号	メモ

避難場所

一時避難場所		メモ
避難所		メモ
家族が離れ離れになったときの集合場所		メモ

その他メモ

災害・気象情報

三重県(防災みえ. j p.) <http://www.bosaimie.jp/>
 三重県(川の防災情報) <http://www.pref.mie.jp/kawasabo/hp/river/>
 三重県(土砂災害情報提供システム) http://www1.sabo.pref.mie.jp/mie_gis/start.php
 三重河川国道事務所 <http://www.cbr.mlit.go.jp/mie/>
 気象庁 <http://www.jma.go.jp/jma/>

防災みえ. JP のメール配信サービスを利用しよう。

気象情報、地震情報、津波情報などの気象・観測情報をメールで自動配信するシステムです。
a@bosaimie.jp へ空メールを送信することで配信登録ができます。



発行 明和町役場 防災企画課

三重県多気郡明和町大字馬之上 945

TEL 0596(52)7110 FAX 0596(52)7137

平成 21 年 3 月発行